

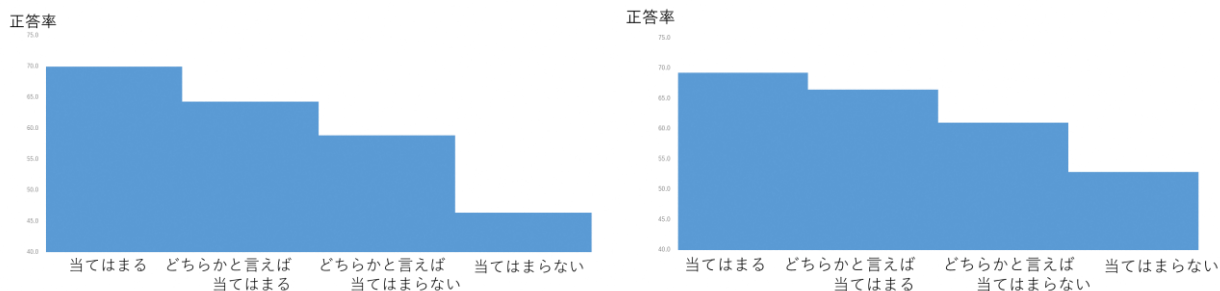
幼小中一貫教育の推進に関する項目の分析

(1) アンケート調査とテストの点数についてのクロス集計結果

調査結果の「正答率」は、全問正解を100とした数値です。選択肢は質問紙調査の質問に対する回答となります。クロス集計とは、2つ以上の項目（質問紙調査の回答と正答率）の回答内容をかけ合わせ、回答者属性ごとの反応の違いを見るようなときに用いる集計方法です。

調査結果全体を分析し、特に本町の幼小中一貫教育で育む7つの非認知能力と関係のある質問項目の中で顕著な傾向がみられたものを抽出したものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部分であり、児童・生徒の学力全ての状況を表したものではありません。

質問項目：自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか 質問項目：難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか



非認知能力「挑戦する力・粘り強さ」を育む取り組みの継続

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の2項目について強く肯定する回答をした子どもに関して、正答率が高いという結果になりました。それら2つの力は小学校で意識的に取り組んでいることであり、今後も「挑戦する力・粘り強さ」に着目してあらゆる教育場面を活用し取り組みます。

(2) 学力を支える力＝非認知能力を幼小中一貫して育みます。太子町では令和4年度から幼小中一貫を進めています。幼小中一貫教育では非認知能力に焦点を絞り取り組んでいます。テストなどで客観的に測ることができる力を認知力と言い、客観的に測ることが難しい力を非認知能力と言います。非認知能力と認知能力は表裏の関係にあります。幼小中一貫教育で重点的に育む7つの非認知能力を設定し、推進委員会を中心に幼小中で連携し取り組みを進めます。

幼小中一貫教育で育む7つの非認知能力

自分を高める系



目標を持つ力
(夢・目標を持つ)

挑む力
(やってみる・挑戦)

自分と向き合う系



あきらめない力

自己調整力
(自分を調整する力)

つながる系



伝える力 (気持ち・意見を)

受け入れる力 (相手を)

協働する力